

令和元年度ブロック研修会報告書

ブロック名 東北ブロック

令和元年度ブロック研修会の実施結果について、下記のとおり報告します。

研修テーマ	地域に責任を持った活動の強化と人材育成 ～10年先を見据えて～
開催日時	令和元年8月10日(土) 13時～16時
会場	名称：宮城県医師会館地域医療連携支援センター 住所：宮城県仙台市大手町1-5
参加人数	(71人) ※講師・発表者・運営役員・研究報告者を含む

【研修の概要】

- 1 挨拶 宮城県保健師長会支部長 小林 浩子
- 2 来賓挨拶 宮城県保健福祉部長 伊藤 哲也 氏
- 3 全国保健師長会活動報告 全国保健師長会 副会長 山田 祐子 氏
- 4 全国保健師長会活動紹介スライドショー上映
- 5 調査研究班報告 「災害時の保健活動の推進～マニュアル改定に向けて～」
報告者：新潟県村上地域振興局保健福祉部
地域保健課長 相馬 幸恵 氏
- 6 講演 「地域に責任を持った活動の強化～10年先を見据えて～」
講師：全国保健師長会 第10代会長
大場 エミ 氏
- 7 グループワーク 「地域に責任を持った活動をするために」
- 8 閉会(次期開催県挨拶) 全国保健師長会東北ブロック理事 秋田県支部 鈴木 明美

【講演会の様子】

講師の大場先生



盛り上がったグループワーク



【内容】

- ・調査研究報告では、西日本豪雨災害後ということもあり、激甚指定された災害被災地の保健師のグループ・インタビュー等から得られた調査結果に関する参加者の関心が高く、アンケート結果からも、「自分の自治体のマニュアルを再確認したい」、「災害時の保健活動の振り返りができてよ

かった」、「受援について整理すべき点が理解できた」等の感想が寄せられ、中規模な災害への対応や被災自治体が活用することに重点を置いた災害時保健活動マニュアル改訂への期待が感じられた。

- ・大場エミ氏の講演「地域に責任を持った活動の強化～10年先を見据えて～」では、今の時代の健康問題を分析できているか、保健師活動の発信力の弱さをどう克服するか（日ごろの業務で感じているが、分析、発信ができていない）等の話があった。
- ・保健師の活力を生み出すためには、小さなテーマや目標を達成する体験や広く多くの保健師と接することで、自分の目指す保健師像を持つこと、悩みや苦しみを分かち合う仲間や助言する先輩がいることが重要。
- ・研修後のグループワークでは、「保健師活動を見える化する、語れる、発信すること」に加え、「保健師活動の強みを生かしていく」ことなどが出され、「研修会・事例検討会での質の向上を図る」ことや「OBや大学の協力を得ながら地域課題を整理する」「業務のスクラップ&ビルド」を図る等の具体策も出された。

【参加者の感想等】

● 全体的な感想

- ・保健師長会の成立と保健師活動の歴史があって今があることを改めて学び、とてもよかった。
- ・テーマも内容もよかった。今の保健師の抱える課題に対応する研修会であり、参加してよかった。

● 調査研究報告

- ・受援について、整理しておくべきことや県との関係など多くの学び、整理できた部分があった。
- ・保健師に限らず、保健活動を担う自治体職員が災害時に読めばすぐ活用できるというのはありがたい。
- ・自分のところに置き換えて深く検討したい。秋の改定版楽しみにしている。

● 講演

- ・先生の話にくぎ付けになった。日頃行き詰まっていた理由が少しわかった気がした。
- ・感じていることを文字で図で表で表現し、プレゼンできることがとても大切。保健師が元気であること。瞳がキラキラ輝けることの大切さを再認識した。
- ・OBや大学の活用を今後できるように連携を深めていきたい。
- ・迫力ある実感を伴う話で普段感じていることを言語化していただいた。元気をもらいました。
- ・最近、厳しいだけの話が多かったのもとてもストンと落ちた。OB会からのオファーあり、仕組み作りなども考えたいと思った。

● グループワーク

- ・他の市町の取組や状況を聞いた。絶滅危惧種と言われないように自己発信していきたいと思った。
- ・大変だけどみんな取り組んでるんだなあと思った。

若手から管理期まで幅広い年齢層の保健師が参加していたが、「保健師の原点を考え、大切にしたいと思った。」「地域住民の力と資源を活かしながら、保健師が手を離しても動き続ける仕組みづくり、町づくりが大切と改めて感じた。」「具体的な事例から参考となるヒントが得られた。」等の感想が多数出されており、参加者にとって満足度の高い有意義な研修となった。